

と[○]超ときこゆるは、東三でうの大しやうの御ひめぎみなり、こぞのなつよりたゞにもおはしまさゞりけるを、二三月ばかりにあたらせ給ひて、その御いのりなごいみじうせさせ給を、大とのきこしめして、東三でうの大しやうは、ぬん[○]冷のにようご、をどこみこうみ給へ、よの中かまへんとこそいふなれなごきゝにくきことをさへのたまはせければ、むつかしうわづらはしとおぼしながら、ざりとてまかせきこえさすべきことならねば、いみじういのりさわがせ給ひけり、さてやよひばかりにいとめでたきをどこみ[○]三むまれ給へり、ぬんいともものぐるほしきおほん心も、れいごまにおはしますときは、いとうれしきことにおぼしめして、よろづに去りあつかひきこえさせ給けり、おほきおとゞきこしめして、おはれめでたしや、東三でうの大しやうは、ぬんの二宮えたてまつりて、おもひたらんけしきおもふこそめでたけれなど、いとをこがましげにおぼしの給を、大しやうごのは、あやしうあやにくなる心つい給へる人にこそとやすからずぞおぼしける[○]中かゝるほごに大どのおぼすやう、よの中もはかなきに、いかでこのうだいぞん[○]頼いますこしなしあげて、わがかはりのそくをもゆづらんと覺したちて、たゞいまのさだいぞん兼明のおとゞときこゆる、えんぎのみかど[○]醒のおほん十六のみやはおはします、それおほんこゝちなやましげなりときこしめして、もとのみこになしたてまつらせたまひつ、さてさだいぞんには、小野宮のよりたゞのおとゞをなしたてまつり給ひつ、[○]中みかどはほりかはの院におはしましければ、われはなやましとてさどにおはしますに、わりなくて參らせ給て、この東三條の大將のふのうを奏し給て、かゝる人はよにありては、おほやけの御ために大事いでき侍りなむ、かやうの事はいままめたるこそよけれなどそうし給て、貞元二年十月十一日大納言の大將をとり奉り給て、治部卿になしたてまつり給つ、無官の定になしきこえまほしけれぞ、さすがにその事とさしたることのなければ、おぼしあまりてかくまでもなし聞え給へる